

ひろば

福岡教育大学学術情報センター図書館報 第152号

Side A : 後援会寄贈図書を紹介
学内事業で設置したコーナーの紹介
Side B : 教職員寄贈図書等の紹介

後援会寄贈図書を紹介

今年も後援会からのご寄贈により、図書(519冊)とDVD(31本)が後援会寄贈図書コーナー(図書館2階)とAVルーム(図書館1階)に新たに加わりました。図書館HPにリストも掲載していますので、どうぞご覧ください。

☆

新刊は、カウンター前の新着本コーナーにポップを付けて展示しています。学生の皆さんからのリクエスト図書のほか、ベストセラーや各種の文学賞受賞本のほか、学術情報センター長と懇談会に出席して下さった学生・院生さん達が選書した図書もあります。

新着本コーナーは随時更新していますので、来館時には要チェック!です。



本学の卒業生で、ミュージシャンとして活躍中の黒木渚さんの初刊行小説「壁の鹿」もあります!



文学賞受賞作品図書

芥川賞 上期 沼田真佑 「影裏」
下期 石井遊佳 「百年泥」
若竹千佐子 「おらおらでひとりいぐも」
直木賞 上期 佐藤正午 「月の満ち欠け」
下期 門井慶喜 「銀河鉄道の父」



視聴覚資料 (DVD)

君の臓腑をたべたい
君の名は。
ラ・ラ・ランド
美女と野獣
海賊とよばれた男 など



学生選書

小山鉄郎 「大変を生きる：日本の災害と文学」
西野亮広 「魔法のコンパス：道なき道の歩き方」
相田みつを 「にんげんだもの」
児玉光雄「錦織圭：マイケル・チャンに学んだ勝者の思考」
横山駿也 「ひとことで音読する古典」 など



平成29年度 後援会図書 貸出ランキング!!



星野源 「いのちの車窓から」



汐街コナ 「『死ぬくらいなら会社辞めれば』ができない理由(ワケ)」



林真理子 「我らがパラダイス」



前田安正 「マジ文章書けないんだけど：朝日新聞ベテラン校閲記者が教える一生モノの文章術」



佐々木圭一 「まんがでわかる伝え方が9割」



福岡教育大学後援会からの寄附により、本学学生のために一般教養図書を購入できることを、心より感謝いたします。

学内事業で設置したコーナーの紹介

教育総合研究所の研究プロジェクトのひとつである「小学校、中学校におけるアクティブ・ラーニングの教員研修の改善に向けた調査研究」の一環として収集した図書や「解説!新しい学習指導要領」のほか、社会連携推進室の福岡教育大学COC事業としての「現代の教育課題」コーナーを設置しました。

それぞれの活動として、2階ホールに図書を配架していますので、どうぞご利用ください。

教職員寄贈図書等の紹介

今年4月までに図書館にご寄贈いただきました先生方の著書及びDVDをご紹介します。

① 中田寿夫、内藤貫太共著『確率・統計』



学術図書出版社
2017年10月発行

本書に類する書籍は数多く流通しているものの、本学の学生にあったものは極端に少ないため悩ましく感じておりました。そこで本学での教育を中心に見据え、レベルや量など本学の学生にあわせた内容を共著者と折り合いを付けながら執筆いたしました。確率に関する箇所を中心に、問や章末問題を限られた紙面に数多く盛り込み、自習可能ともなるように略解も付けています。実践的教育で力を発揮するためには深い洞察をもって問題を解く訓練が必要で、教員になる前にしっかり修行してもらいたいという思いが強くあります。

昨今では「初等中等教育の現場に直接結びつかない大学での教科専門の授業は必要性が疑われる」という趣旨の意見が耳に入ってくる場合があります。本書はそのことに対する私なりのささやかな抵抗であり、教科専門の立場からの数学教育が広がればと願っています。(文：数学教育講座 中田寿夫先生)

< 開架室 福教大コーナー 417||N43||福教大 >

② 井上泰至編『関ヶ原はいかに語られたか：いくさをめぐる記憶と言説』



勉誠出版
2017年8月発行

本書序文にも言うように、現在広く浸透している関ヶ原の戦いのイメージは、司馬遼太郎の小説『関ヶ原』によって形作られているところが大きいと言えます。では、それ以前はどうだったのでしょうか？また、どのようにイメージが形成されてきたのでしょうか？

本書は、これらの問題意識のもと、歴史研究や文学研究の執筆者が、石田三成や島左近、小西行長といった関ヶ原の戦いでおなじみの武将について、合戦以降、どのように人々の間で語られ、イメージが作られたかを、文献資料だけでなく、時には屏風や演劇作品も用いて記した本です。福岡ゆかりの武将、黒田長政についても載っています。本書を手にとってみた人は、それぞれの武将のイメージがどう作られてきたか、ということを楽しみながら知るだけでなく、事実とは何か、虚構とは何か、という問題にも思いをめぐらせてもらいたいと思います。(文：国際共生教育講座 菊池庸介先生)< 開架室 福教大コーナー 210.48||55||福教大 >

③『国語教育を学ぶ』

国語科は、子どもたちに何を教える教科でしょうか。漢字とか言葉の数を増やすことは容易に考えつきますが、国語教育は、そのような皮相な部分だけではなく、コミュニケーション力や論理的思考力の指導をも含み混んだ教育内容を持っています。

なぜなら、コミュニケーションや論理的に考えることはすべて言葉で行われるからです。このことを表すのに「国語の教科書を教えるのではなく、国語の教科書を通して教える」という表現が使われます。「教室に飛び交う教師の言葉、子どもたち同士で交わされる言葉が教材である」ともよく言われることです。

けれども、いったいどういう教え方をすればこれができるのかについては、大学で講義を聴いただけではなかなか理解できないものでしょう。

このDVDは、国語科の授業イメージを目で見えて理解するために作成されています。

また、教材研究の手順や、語彙を増やすためのフラッシュカードを用いた指導などの具体的な指導コンテンツ例も紹介しています。

「百聞は一見にしかず」です。このDVDは、学生の皆さんが国語科授業のイメージを持つための格好の手がかりを提供します。どうぞ活用してください。

(文：国語教育講座 山元悦子先生)< 1階 AVルーム 375.8||Y31||AV >

